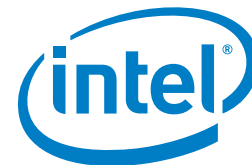


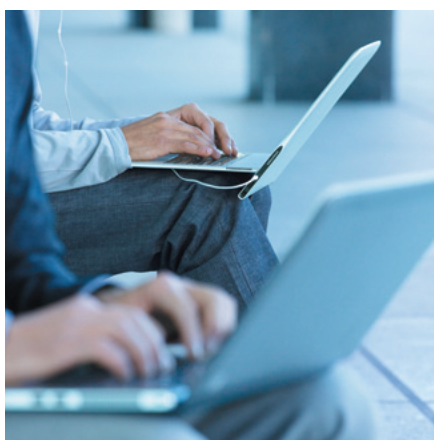
導入事例

Ultrabook™ デバイス

Ultrabook™ とインテル® アイデンティティ・プロテクション・テクノロジーによる
ワンタイムパスワードの導入



Ultrabook™ が内蔵するインテル® アイデンティティ・プロテクション・テクノロジーにより ワンタイムパスワードを自動生成し、 ファイル共有サービスのセキュリティを強化



課題

- クラウド型ファイル共有サービス利用時の認証強化
- ノートブックPCのセキュリティ・レベル向上

ソリューション

- Ultrabook™ デバイス
- エンタープライズ向けクラウド型ファイル共有サービス「BAZA ONLINE」(株式会社ウェイズジャパン)
- クラウド型セキュリティサービス「Symantec™ Validation & ID Protection」(日本ベリサイン株式会社)

導入効果

- パスワードとワンタイムパスワードの2要素認証によるセキュリティ強化
- ノートブックPCの管理効率向上
- モビリティの促進



心に届く旅

阪急交通社

Direct to your heart

株式会社阪急交通社

本社: 大阪府大阪市北区

梅田 2-5-25 ハービス OSAKA

創業: 1948年2月22日

設立: 2007年10月1日

資本金: 1億円

事業内容: 旅行業、内外の航空・船舶・鉄道・
軌道・バス・その他の運輸機関の
貨客販売代理店業、損害保険代理業ほか

<http://www.hankyu-travel.com/>

団体旅行向け営業担当者が ノートブックPCを持ち歩き パンフレットなどを見せながら提案活動

阪急阪神交通社ホールディングスの中核事業会社で、国内大手旅行会社の一角をしめる株式会社阪急交通社(以下、阪急交通社)。1948年の創業以来「人の交流と国際物流を通じて新たな価値を創造し、豊かな平和社会の発展に貢献する」を経営理念に、時代のニーズに則した旅行サービスを提供してきました。現在は新聞などのメディア販売に特化した基幹ブランド「トラピックス」をはじめ、リピーター向けの「クリスタルハート」、最高級ブランドの「ロイヤルコレクション」、旅慣れたユーザー向けの「e-very」、ヨーロッパ旅行を中心とした「フレンドツアー」の5ブランドを展開しています。2010年度の旅行取扱額は3,483億円で旅行業界4位、新聞広告出稿量は全業種を通じて1位。近年はインターネット販売も増加し、メディアミックスも積極的に仕掛けています。

企業や学校などの各種団体向けに、社員旅行や修学旅行、インセンティブ旅行などを企画・提案する阪急交通社の団体営業部門では、担当者がノートブックPCを持ち歩いて提案活動を行っています。ノートブックPCには、団体旅行の企画書、ツアープラン、パンフレットなどの

データを保存し、商談ではPCの画面を見せながら商品説明などを行うスタイルが一般的です。ツアーを企画立案する際に必要な、観光スポット、宿泊先、飲食店、移動手段などの情報は、社内の共有ファイルサーバーに保管されており、担当者が必要に応じて利用しています。しかし、共有サーバーは、東日本・中部・西日本・九州の4拠点に分断され、アクセス権で制御されている関係上、各拠点をまたいだファイル共有ができませんでした。営業企画部IT・CRM戦略課の小副川武氏は、「例えば、海外視察で提出された出張報告書や添乗報告書など全社で共有できるファイルでも、拠点間で物理的にサーバーが分かれていることでうまく情報共有ができず別々の担当者が同じ観光地を訪れ、同じ施設を視察するという無駄な海外出張も行われていました」と振り返ります。

ファイル共有サービスの認証強化に ワンタイムパスワードの生成機能を 搭載したUltrabook™を採用

こうした不便さを解消するために阪急交通社は、団体営業部門を対象に、株式会社ウェイズジャパンが提供するエンタープライズ向けクラウド型ファイル共有サービス「BAZA ONLINE(バザオンライン)」を2011年10月に導入。東西のサーバーを統合し、どちらの営業部か

盗難・紛失時に PC の機能を無効化する、インテル® アンチセフト・テクノロジーに対応する Ultrabook™

らも同じ情報が共有できる体制に改めました。BAZA ONLINE によって、東西のファイル共有の問題は解消されたものの、持ち歩いて使うノートブック PC としてのセキュリティには不安が残ります。そこで同社は、BAZA ONLINE のワンタイムパスワード・オプションの導入を決定。営業担当者が利用するノートブック PC を検討する中で、軽さと速さ、セキュリティ機能を備えた Ultrabook™ の試用を決定しました。

Ultrabook™ は、ワンタイムパスワードを自動生成する、インテル® アイデンティティ・プロテクション・テクノロジー (インテル® IPT)¹ を内蔵しています。BAZA ONLINE へのログインには、通常の固定パスワードとワンタイムパスワードを入力することでセキュリティ・レベルは一気に高まります。しかもワンタイムパスワードは 30 秒ごとに自動で更新されるため、第三者による不正アクセスは大幅に困難になります。インテル® IPT は、ハードウェア・トークンの機能をチップセットに直接組みこんだもので、ハードウェア・トークンのような紛失や盗難といったリスクは発生しません。営業企画部 IT・CRM 戦略課の宇和川匠氏は「チップセットに組み込まれている Ultrabook™ なら、安全性が高く、導入も簡単です。仮にユーザー ID とパスワードが漏れたとしても、他の PC からはアクセスができないので、よりセキュリティ・レベルが高まると思いました」と評価しています。

BAZA ONLINE では、日本ベリサイン株式会社 (以下、ベリサイン) が提供するワンタイムパスワード認証「Symantec® Validation & ID Protection」を採用し、セキュリティを強化

しています。インテル® IPT は、ベリサインのワンタイムパスワード・ソリューションに対応しているため、Ultrabook™ を導入するだけで BAZA ONLINE へのアクセスで強固な 2 要素認証を利用できます。

ノートブック PC の管理効率を高めるため Ultrabook™ が搭載する PC 無効化機能やリモート管理機能にも注目

現在は、管理部門が Ultrabook™ にワンタイムパスワードによるログイン設定をした上で、営業部門の担当者に貸与しています。担当者は、従来のパスワードと、ワンタイムパスワードを入力すると BAZA ONLINE にログインして共有ファイルが利用できるようになります。機動力とセキュリティを備えた Ultrabook™ の、利用者からの評判も上々です。

「利用者は快適に利用しているようで、これまでに不具合や不満の報告はありません。従来の PC と比較しても、Ultrabook™ は軽くて持ち歩きやすく、休止状態からの起動も速く、パフォーマンスも高いことから、ユーザーのモビリティは確実に高まっています。管理部門としては、外出先からの利用に関するセキュリティが強化されたことで、安心感が得られたことが大きな成果です」(宇和川氏)。

阪急交通社ではさらに、ノートブック PC の紛失や盗難リスクを解消するインテル® アンチセフト・テクノロジー (インテル® AT)² による、リモート管理機能にも注目しています。インテル® AT を利用することで、盗難・紛失時に PC の起動

自体を制限したり、データへのアクセスを無効化したりすることが可能になります。インテル® vPro™ テクノロジーに対応した Ultrabook™ ならインテル® アクティブ・マネジメント・テクノロジー (インテル® AMT)³ を利用して、離れた場所からネットワーク経由で PC の電源オン/オフを切り替えたり、動作状況を確認したりすることもできます。小副川氏は「Ultrabook™ のリモート管理機能などを有効に活用し、メンテナンスなどの運用管理を効率化していくことも検討しています」と語ります。

Ultrabook™ については、速さ、軽さ、機能面的にも他のノートブック PC に劣ることなく、価格面でも十分なことから、ノートブック PC の切り替え時の、有力な選択肢として検討していく考えです。利用用途の拡大について宇和川氏は、「全国の拠点に一度に 20 台、30 台貸し出す研修用の PC として利用するなら、コンパクトサイズで、リモート管理機能や盗難防止機能を備えた Ultrabook™ は有効です。また、会社として緊急時の事業継続や、ワークスタイルの変化に対応する在宅勤務を推進していく中で、管理部門としてはモビリティの高い Ultrabook™ によって貢献できると考えています」と語りました。

インテルは、阪急交通社の要望に応えるべく、機動性とセキュリティを両立した Ultrabook™ の強化に継続して注力していきます。



株式会社阪急交通社
営業企画部
IT・CRM 戦略課
一係 係長
宇和川 匠 氏



株式会社阪急交通社
営業企画部
IT・CRM 戦略課
一係 主任
小副川 武 氏



Ultrabook™ に関する詳しい情報は、
下記のサイトをご覧ください。
<http://www.intel.co.jp/ultrabook/business/>

¹ すべての条件下で絶対的なセキュリティを提供できるシステムはありません。インテル® アイデンティティ・プロテクション・テクノロジー (インテル® IPT) を利用するには、インテル® IPT に対応した第 2 世代または第 3 世代インテル® Core™ プロセッサ・ファミリーを搭載したシステム、および同テクノロジーに対応したチップセット、ファームウェア、ソフトウェア、インテル® IPT に対応した Web サイトが必要で、インテル® IPT に対応した Web サイトでのみ利用可能です。各システムメーカーにお問い合わせください。データやシステムの紛失や盗難など、サービス利用の結果生じたいかなる損害に対してもインテルは責任を負いません。詳細については、<http://ipt.intel.com/welcome.aspx> (英語) を参照してください。

² すべての条件下で絶対的なセキュリティを提供できるシステムはありません。インテル® アンチセフト・テクノロジーを利用するには、同テクノロジーに対応したチップセット、BIOS、ファームウェア、ソフトウェアを搭載したシステムと、同テクノロジーに対応したサービス・プロバイダーのサービスへの加入が必要です。対応状況と機能については、各システムメーカーとサービス・プロバイダーにお問い合わせください。データやシステムの紛失や盗難など、サービス利用の結果生じたいかなる損害に対してもインテルは責任を負いません。詳細については、<http://www.intel.com/go/anti-theft> (英語) を参照してください。

³ インテル® アクティブ・マネジメント・テクノロジーを利用するには、インテル® AMT に対応したチップセット、ネットワーク・ハードウェア、ソフトウェアを搭載したコンピューター・システムが必要です。システムは電源コンセントおよび企業 LAN に接続されていることが必要です。インテル® AMT のセットアップは購入者による構成が必要です。特定の機能を有効にするために、セットアップに管理コンソールへのスクリプトや既存のセキュリティ・フレームワークへの統合を必要とすることがあります。また、新しいビジネスプロセスの変更や導入が必要となることもあります。ノートブック PC の場合、ホスト OS ベースの VPN 上や、ワイヤレス接続時、バッテリー駆動時、スリープ時、ハイバネーション時、電源切断時には、インテル® AMT を利用できないことや、一部の機能が制限されることがあります。詳細については、<http://www.intel.co.jp/technology/platform-technology/intel-amt/> を参照してください。

本書は参考用です。インテルは、明示されているか否かにかかわらず、本書の内容に対する保証はしていません。

具体的なコスト削減額や結果は、当該顧客企業、そのビジネス目標や企業環境の構成に特有のものです。ビジネス目標、ソフトウェア設計、インフラストラクチャー、または構成が異なると、実際の結果にも差が生じます。

Intel、インテル、Intel ロゴ、Ultrabook は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

* その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

インテル株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-1-1
<http://www.intel.co.jp/>

©2012 Intel Corporation. 無断での引用、転載を禁じます。
2012 年 10 月

382060-001JA
JPN/1210/PDF/SE/MKTG/TS